

海軍司令部跡

南ガラパンに今も残る香取神社の後ろの山（タポチョ山の西側にあたる）には、サイパン島の海軍守備を担当する海軍司令部（第五根拠地隊司令部）が置かれていた。主にチャモロ人労働力を使って、険しい斜面の岩を削って洞窟状に作った人口要塞である。つい最近工事したのでは、と思えるほど堅強に作られており、米軍の空襲にも耐えた。

岩壁にあいた狭い入り口を入り、懐中電灯で足元を照らしながら 幅 1.5メートル、高さ 2-3メートル程度の通路が 10-15メートルくらい進むと、突き当たりで T字型に通路が分かれる。それを右に曲がると、岩が崩れ落ちたほこら状のスペースにたどり着く。がれき状の岩をのぼると、穴があいていて外を見ることができた。ここから風が入り、洞窟内の換気が行なわれていたらしい。さらによく見ると、崩れた岩に混じって「かたつむり」の殻が、貝塚のようにうず高く積まれている。兵士は、食糧不足の中、かたつむりを食べて飢えをしのいでいたらしい。

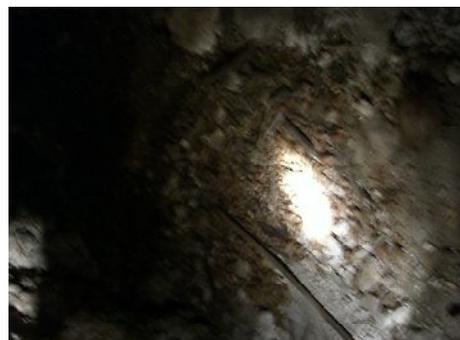
そこからさらに右に続く狭い通路を 5-10メートルほど進むと、コンクリートで塗り固められた綺麗なアーチ型をした部屋がある。さらに奥には、水を抜いたプールのようなコンクリート作りの「貯蔵庫」がある。幅およそ 4メートル、縦はそれより長く、落ちたら 1人では上がって出てこられない位深い。

入り口とは別の出口をめざして歩く途中、おそらく日本兵が身につけていた軍服の装飾品が落ちているのを、現地のガイドさんが見つけた。

なお後に地獄谷で自決する南雲中将も、この壕にこもっていた。



丘を登っていくと洞窟の入口にたどりつく



中では懐中電灯が必要



天井部に通気孔があいている



強固なコンクリート天井



プール状の貯蔵庫



軍服の一部か？



「要塞」を出るときは言葉を失っていた